

## 最新！宗教情報 ////////////////////////////////////// No. 8

## ◎ロシア法務省、宗教関係中央団体56を解散へ

【C J C = 東京】ロシア法務省が10月半ば、宗教関係中央団体56を、手続き不備を理由に解散団体として発表したことから混迷が広がっている。

宗教関係の中央組織は562あるとされ、その半数以上の309団体がロシア正教会関係と見られているが、解散予定とされた56団体は、アルメニア使徒教会、カトリック、プロテスタント、ネストリウス派、イスラム、仏教関係のものが多く、正教会関係は含まれていない。

モスクワにある『法と正義・スラブ・センター』は、正教会関係の団体には事前に注意がおこなわれていたのではないかと推測する。総主教座の対外教会関係部門のフセフォロド・シャプリン副部長は、系列団体の2007～08年度認可申請に、法務省が「コメント」していた、と言う。ただその時期や、文書によるものか、口頭か、といったことには触れなかった。

正教会系列の団体には、事前に注意が行なわれ、その結果、解散リストにははいらなかったのだとすると、これはその他の団体に差別扱いをしたこととも見られる。1993年の憲法では、全ての宗教関係団体を平等に扱う、と定めている。

## ◎長崎で国内初の「列福式」、ひも解かれる隠れキリシタン史

【AFP、11月20日】ローマ法王庁がカトリック信者に「福者」の位を授ける「列福式」が24日、国内で初めて長崎市で行われる。17世紀の江戸時代に殉教したキリスト教信者188人に、最高位である「聖人」に次ぐ福者の位が授けられるが、日本でのキリスト教布教における暗い過去が再び語られる時でもある。

日本ではキリスト教は深く根付いていないが、カトリック教会では今回の式をきっかけに、キリスト教の歴史に関心を持つ人が増えることを期待している。

キリスト教は1549年、ポルトガルのイエズス (Jesuit) 会宣教師、フランシスコ・ザビエル (Francis Xavier) により日本にもたらされた。しかし幕府はまもなくキリスト教禁止令を出し、信者への迫害を開始。

幕末に米国の圧力で開国し、明治維新後の1873年、信教の自由が認められるまでの250年間に3万人が殉教したとされる。「世界を歩いた神父」として知られるペトロ岐部 (Peter Kibe) も殉教者のひとりだ。

この間、「隠れキリシタン」たちは辺境の島などに逃れ、マリア像を仏像に似せたり、仏像の背中に十字架を彫るなど、仏教徒と見せかけるための工夫をこらし、キリスト教への信仰を続けた。

信者への拷問は壮絶だった。はりつけや斬首はよくみられ、耳を切って逆さづりにし、全身の血が抜けるまで放置する方法もあった。雲仙岳の火口に生きたまま放り込まれる者もいた。また信者の家族は、たとえ生後12か月の乳児であっても、一家全員が皆殺しにされた。

## ■祖先が隠れキリシタン、迫害の歴史への関心高まる

今回の隠れキリシタンたちの列福は、書類の提出から25年以上を経て前年、現ローマ法王ベネディクト16世 (Benedict XVI) が決定した。式は平和を象徴して、1945年8月9日に原爆が投下された長崎平和公園で行われる。法王庁の前列聖省長官ホセ・サライバ・マルチンス (Jose Saraiva Martins)

枢機卿が出席するが、政府関係者は、カトリック教徒である麻生太郎 (Taro Aso) 首相さえも招待されていない。

キリシタンの迫害についてはある程度は知られているが、関心は総じて薄いと、歴史家らは口をそろえる。日本におけるキリスト教徒の数は 100-200 万人、うち約 50 万人がカトリック教徒と推定される。

ある地元の女性は、自分の祖先が殉教者だったことを知ったのは、つい最近のことだと言う。「いい意味で衝撃でした。カルチャーショックといってもいいでしょう。わたしみたいに、祖先が隠れキリシタンだったことを全く知らない人は、たくさんいるんじゃないでしょうか」

そうした言葉を反映するかのように、地元自治体は、キリシタンの歴史に興味を持つ人が最近にわかが増えてきていると言う。観光収入に大きく依存しつつある長崎市は前年、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」をユネスコ (UNESCO) の世界遺産 (World Heritage) 暫定一覧表に登録した。

■ <http://www.afpbb.com/article/life-culture/religion/2541179/3540470>

## A・シュヴァイツァーの生涯と思想

### 生涯(1)

- 1875年 カイザースベルク(1921年までドイツ領)で牧師の長男として生まれる。
- 1896年(21歳)「わたしは、30歳までは、学問と芸術のために生きよう。それからは、直接、人類に奉仕する道を進もう」。
  - 哲学・神学・音楽に専念していく。聖ニコライ教会の副牧師、シュトラースブルク大学神学部の講師となり、また、パイプオルガン奏者としても著名になっていた。
- 1905年 30歳から医学を学ぶ。フランス語版『バツハ』を出版。
- 1906年 『イエス伝研究史』を完成。1908年、ドイツ語版。
- 1912年 大学と教会に辞表を提出。

2

### 生涯(2)

- 1913年(38歳) ガボンのランバレネに向かう。
- 1914年 第1次世界大戦はじまる。自宅に拘禁される。
  - 文化とは何かについて考え始める。現代文化の退廃と、文化再建の道。
- 1915年(40歳) オゴウエ川をさかのぼる途中「**生命への畏敬**」の理念を考えつく。
- 1917年 フランス本国の捕虜収容所にはいるために、ランバレネを去る。
- 1918年 捕虜交換でドイツに戻る。
  - 2万フランもの借金が残る。パリで豪勢に暮らしていたピカソの1ヶ月の生活費が千フランの時代であった。
- 1919年 スウェーデンの大僧正から講演に招かれる。ヨーロッパの各地で講演や演奏をし、大成功を収める。

3

### 生涯(3)

- 1924年 再びランバレネへ向かう。
- 1926年 内村鑑三、シュヴァイツァーに寄付金を送る。
- 1928年 フランクフルト市よりゲーテ賞を受ける。
- 1931年 『わが生活と思想より』出版。
- 1953年(79歳) ノーベル平和賞受賞。「現代における平和の問題」を講演。
- 1957年 オスロ放送局から原爆実験中止を訴える声明を放送。
- 1965年(90歳) 逝去。

4

## 神学思想——史的イエス研究

- 著作
  - 『メシア性の秘密と受難の秘義——イエス小伝』(1901年)
  - 『ライマールスからブレーデまで。イエス伝研究史』(1906年)
  - 『使徒パウロの神秘主義』(1930年)
- 近代的なイエス像を批判
  - 19世紀末の宗教思想(特に文化プロテスタンティズム)によれば、イエスは地上において倫理的な神の国を建設しようとした「道徳的教師」であった。

5

## 徹底的終末論

- 黙示終末的預言者としてのイエス
  - イエスは徹頭徹尾、後期ユダヤ教のメシア待望の中で生きていた。神の国は人の子と共に、超自然的に出現すると期待していた、と理解する。
- イエス神秘主義
  - 時代的な制約を受けたイエスを直視しながらも、時代を超えて語りかけ、信仰を呼び起こし、倫理実践へと駆り立てるイエスを見出そうとする。

6

## 生命(生)への畏敬 Ehrfurcht vor dem Leben

- 「わたしは、生きようとする生命に取り囲まれた生きようとする生命であるという事実」
- オーゴウェ河をのぼる船の中で突如思いつく。
  - 「河馬の群の間を船が進んでいったとき、突如、今まで予感もしなければ求めたこともない『生命への畏敬』という言葉がひらめいたのであった。——鉄扉は開けた！ 密林の道は見えてきた！ ついにわたしは、世界・人生肯定と倫理とともに包含される理念に到達したのである！」(『我が生活と思想より』)

7

## 影響史

- 20世紀神学における終末論の再発見
- エコロジー思想・生命倫理への影響
  - レイチェル・カーソンの『沈黙の春』(1962年)はシュヴァイツァーに捧げられている。
- 動物解放運動への影響

8